

REC'D 16 JUN 2005

WIPO

PCT

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)

【PCT36 条及び PCT 規則 70】

出願人又は代理人 の番類記号	Y0423-PCT	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。		
国際出願番号 PCT/J P 2004/010440	国際出願日 (日. 月. 年)	15. 07. 2004	優先日 (日. 月. 年)	17. 07. 2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ C07D417/04, A61K31/428, 31/4439, 31/4545, 31/55, A61P7/00, C07D417/14, 513/14				
出願人 (氏名又は名称) ア ス テ ラ ス 製 薬 株 式 会 社				

1. この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条（PCT36 条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
- a. ☐ 附属書類は全部で _____ ページである。
- ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照）
- ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
- b. ☐ 電子媒体は全部で _____（電子媒体の種類、数を示す）。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第 802 号参照）
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

国際予備審査の請求書を受理した日 25. 11. 2004	国際予備審査報告を作成した日 01. 06. 2005		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 荒 木 英 則	4 C	9 7 3 6
	電話番号 03-3581-1101 内線 3452		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された代替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること)

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-15	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1-15	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-15	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

見解は、国際調査報告で引用された以下の各文献の記載に基づいて示された。

- 文献1 : WO 01/07423 A1(塩野義製薬株式会社)
 文献2 : WO 01/53267 A1(塩野義製薬株式会社)
 文献3 : WO 02/062775 A1(山之内製薬株式会社)
 文献4 : JP 3-68567 A(藤沢薬品工業株式会社)

○請求の範囲 1-15 について

文献1から3には、血小板増多作用を有する2-アシルアミノチアゾール誘導体が記載されている。ここで、請求の範囲1-15に係る発明と文献1から3に記載されたものとを比較すると、前者はチアゾール骨格の5位が請求の範囲1にある、R¹¹(R¹²)N-なる化学構造のもので置換される点で後者のものに相違する。

ところで、文献4では血小板増多作用を有する化合物であって、チアゾール骨格を有するものについて、該骨格の5位が-A-R³なる基で置換され、Aとしてメチレン基を取りうることを、及び、R³としてアミノ基等で置換されていてもよいアリール基やアミノ基等で置換されていてもよい窒素含有不飽和複素環基を取りうることを記載されている。しかし、これらの置換基について具体的に用いられているものをみても、本願の請求の範囲1にある、R¹¹(R¹²)N-なる化学構造のものについては何ら記載されていないため、かかる記載によっては、当業者といえども容易に請求の範囲1-15に係る発明に想到し得たものとはいふことができない。

したがって、請求の範囲1-15に係る発明は、文献1から4の記載によっても進歩性を有するものである。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書 (PCT規則 70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
WO 03/062233 A1 「EX」	31. 07. 2003	15. 01. 2003	18. 01. 2002

2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則 70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)